

## 「よさ」を信じて

盛岡市立松園中学校長 内村弘子



科学的根拠は何一つありませんが、これまでの経験から得た実感に「自分には『よさ』がある」と信じ、他者とかかわれる子どもは将来たくましく生きていける」ということがあります。「よさ」という言葉は抽象的ですが、今なら「自己肯定感」や「自己効力感」と言い換えられるでしょうか。

そして、それはここ数年で見聞きすることが多くなった「レジリエンス」にもかかわるものだと思います。元来、カタカナ言葉には懐疑的なのですが、あまりに頻繁に見聞きする

ので、自分なりに理解しようと調べてみました。すると、もともとは物理学の言葉。英和辞典には「回復力、快活、元氣、弾力性」とあります。さらに英英辞典を引いて和訳し、自分なりに解釈すると「レジリエンス」とは「困難や逆境、ストレス等から立ち直る力」、「失敗から学んで粘り強くやり抜く力」といったものとして理解できます。

困難や失敗は避けたい…という子どもたちが増えている中、「レジリエンス」は今、まさに求められる力なのだと思います。そして、その基盤となるのは、自分には「よさ」があり、困難や失敗を乗り越える力があるという思いではないでしょうか。また、それは決して一人では感じられないもの、他者とのかかわりの中で獲得できるものだと思うのです。それを思うと

き、大切なのはそのための場合構築し、具体的な方法をもつことだと思います。また、私たちには子どもたちの「よさ」とともに、縁あって出会い、ともに働く者としてお互いの「よさ」を信じ、かかわる力が求められていると思います。きっとそれは、職場、組織としての「レジ

リエンス」にもつながっていくはずです。いまだ収束が見通せないコロナ禍。そして、変化の激しい予測不可能な時代に「レジリエンス」をもった子どもたち、学校であるために、何よりも先生方には元気でいてほしい…そう願っています。

### こずかた写真館⑦ 小・中学校体力向上研修会

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、「適度な運動」で抵抗力を高めることは大切です。

盛岡の子供たちの体力向上に向けて、本研修会では、実技も交え、先生方に「楽しく」体を動かしていただきました。(体力向上についての詳細は3頁をご覧ください。)



2022/01/05 10:51